

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2021年2月18日

No.13

会社：年度末の需要を逃さず収入を確保していききたい
組合：1月期改定は経常黒字の計画である
計画達成をめざして頑張っているのは組合員である!!

～2021 JR 総連春闘 第1回交渉報告(その2)～

中央本部は本日の申し入れに引き続き、会社から収入動向について説明を受けました。
主な内容は以下の通りです。

【営業関係】

- (1) 1月期のコンテナ収入は88.7億円、車扱は13.0億円、合計で101.7億円である。コンテナ輸送量は新型コロナウイルス第3波による需要低迷及び北日本・日本海側を中心とした記録的な寒波の影響による津軽線等の不通により、全ての品目で前年を下回っており、前年比85.7%となった。
- (2) 年末年始の雪害により長期運休を余儀なくされたため、北海道方面の積合せ貨物が他モードに転換してしまった。しかしながら積合せ貨物の好調は続いており、年度末の駆け込み需要を逃さず、収入確保に全力をあげていきたい。

【事業開発部門】

- (1) 前年度の分譲収入の反動減と、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアイガーデンではテナントの撤退が発生しており減収している。
- (2) 昨年12月に着工した東京レールゲートEASTと、昨年6月に着工したDPL札幌レールゲートは予定通り工事が進められている。テナントはまだ具体的には決まっていない。
- (3) 社宅用地について、中里社宅のリノベーションによる賃貸物件化や、向日町社宅跡地の土地賃貸を進め、他にも役割の終えた社宅用地活用の検討を進めている。

【組合の主張】

- ① 災害による運休対応に職場は苦勞している。列車の動き出しの判断が難しく勤務操配が大変であるため、もっと早く休活の情報を出すべきである。途中抑止列車の乗務員の救済手配を早急に行なうべきだ。
- ② eコマース需要で特積みが好調であったが、雪害による長期運休で荷物が逃げていると聞いている。貨物鉄道輸送に取り戻す活動は行なっているのか。

【会社の回答】

- ① 休活手配は午前中までに決めるよう改善されているが、今回の雪害ではその後に状況が変わり運休となった場合があった。
- ② 1月期改定計画は需要が前年度並みに戻る予想で収入を計画しているが、現状は△10%ほど減収している。コロナ禍で対面での営業活動が難しい場合はリモートや電話で行なわれている。

組合員の皆さん！2021 JR 総連春闘がスタートしました。会社は貨物労組の申し入れに対し「これまでの概念を変えていくことを良しとする精神で展開していきたい」との考え方を示しました。新賃金と併せて諸要求改善も組合員の切実な要求であり、中央本部はその実現にむけて闘います。基本給表を書き換え4年連続の賃金改善実現をめざし、コロナ禍にあっても職場から創意工夫した取り組みを作り出し全組合員参加の闘いを展開しようではありませんか！！中央本部はその最先頭で闘うこと明らかにして、第1回交渉報告とします。

次回、第2回交渉は3月3日(水)です。

以上